

Scene Cut	Picture	Action	Dialogue	Time

ReTake x **Retake**

リテーク × 月見の季節 × リテーク

リテーク × 月見の季節 × リテーク

また、この季節がやってきた。

と、思う。

去年も丁度今頃。

マクドナルドの月見バーガーが出る頃だ。

マクドナルドのチーズ月見バーガーは、エッグマックマフィンの次に好きなメニューなのだが、もう何年も前にやっぱり、同じ様な事で悩んでいた。

去年の今頃。

私は東京にいた。

東京にはもう何年いただろうか、結構な長い年月をいた様な気がする。

正確な年月は数えていなかったが、少なくとも二桁の単位では東京に暮らしていた様な気がする。

その二桁の単位は、殆どと言ってもいいぐらいまるごと、アニメの仕事という職業に就いていた。

アニメ業界歴とかいう奴だ。

色々あったが、去年、次の仕事が終わったら地元に戻ろうと私は考えていた。

東京で一人で暮らしていく為には、いささか限界を感じていたというのが正直な思いだ。

負け組と言われても仕方が無い。

実際、同じ業界人に負け組だと言われた事もある。そうかもしれない。

業界人の中にはもちろん、単身、東京に出て来て成功している者も多いからだ。余程の事が無い限り、有名にはならずとも生き残ってはいける。

私にも、その条件はあった。

だが、私には生き続けるだけの強さは無かった。

そういう事だ。

無論、生きていく為に単純な強弱や力、物理的、精神的な何かで左右されるとは限らない。

しかして、人が生きていく為に必要な何か、というものは、どんな形であれどこかにあるのだろう。それは人それぞれが持つもので、自分にとっての何か、とは、いつか必ずわかるのだろう

。とかく、私には多くの年月を東京で、この仕事で生き、それから更に一人で生き続けるだけの力は無かった。

最後に、やりたいと思う作品に関わり、この仕事が終わったらもうアニメ業界からは完全に離れてしまっても、帰ろうと思っていた。

結局の所、ただ疲れていたのかもしれない。

どんな理由であれ、続ける事、続けられない事に対して、もし貴方の問題である。それは貴方が弱かったからだ。

と言われれば、それまでであり、そうだとも思う。

自分自身、自分と同じ境遇の他の誰かがそうなったならば、そう思ったかもしれない。

それは、それぞれの正しさであるからして、今は責める気持ちなどは無い。

ただ、それに対して少しのマイナスの感情は、ある。

最後にやりたいと思った作品は、手掛ける事になる前に、何人かの人に相談をして決めた事だ

。最終的に決めた事は私であるから、私が選んだ選択、結果がどうであれ、私の責任だ。だから私は何を思っても、私にしか打つけれない。

仕方が無いだろう。

最後にやりたいと思った作品は、突然の倒産によって凍結となった。

私がこの作品に参加する事が決まって、僅か三ヶ月後の話である。

ちなみに、給料は40日後払いであったので、最初の給料を貰う前に倒産という事になり、実質いた三ヶ月間の給料は未払いのまま、スタジオは解散した。

スタッフはそれぞれの道を行った。

主に、他のスタジオに行く者が多かった。

私は、この作品が終わったら帰ろうと思っていた事から、作品の再開を待つ事も無く、地元に戻る事にした。

当初は、再開まで待とうという気や、他のスタジオに行こうという気もあったが、最終的にどうでも良くなったのだろうと今は思う。

東京で生きていく事、一人でいる事、仕事をどうするか。

スタッフの中には、私の様に辞める者もいたと聞く。

そして、現在。

私は沖縄にいる。

沖縄で、最初に採用となった仕事は何故か、でもないのだが、アニメの仕事であった。

あんなにアニメの仕事はもういい。などと思っていた。

スーパーのレジ打ちでもして、今度は真っ当な仕事をしようか。と考えていた。

それが沖縄くんだりまで来て、またアニメの仕事である。最初は自分で自分を笑ったものだ。

笑うしかないだろう。

決して、沖縄だから、この会社に採用された事が、という事で笑ったのではない。

あくまでも自分の境遇に笑ったのだ。

沖縄に帰ったなら、少しアニメから離れて新しい事も始められるかもしれない。

だが、当時の状況を踏まえても仕方のない事であったとはいえ、結局その考えを取らず、素直に職に就いたのだからもっとおかしいものだ。

慌ただしく、アニメ制作に関わっていたら、突然その作品も製作中止となった。

八月の終わり。

丁度、八月分を含めると三ヶ月分の給料が未払いのまま、私は職を辞する事になった。

去年の作品が製作を凍結になったのは八月であった。

スタジオの整理が終わると、九月に解散。

沖縄に帰って来たのは十月だ。

それから約一年、沖縄に帰ってからこのスタジオ、この仕事に就き、巡る季節と同じ様に、同じ結末を迎えたのである。

スタジオCという会社にいた時、近くにある食べ物屋で一番安かったのがファーストフードのマクドナルドだった。

月見バーガーが発売される季節、私はスタジオCという小さな会社で、今後の事をやっぱり考えていた。

大好きなチーズ月見バーガーを食べながら、このスタジオでやっていけるのか。などをぼんやりと考えていた。

何故なら、その小さな会社は、その月の給料を払っていなかったからだ。

東京に来て、私が初めて就職した会社は、スタジオAである。

スタジオAには一年ほど、いた。

私がアニメの仕事に長年就く事になったきっかけの会社でもあると言えるだろう。

未経験の私が、業界に飛び込んだ瞬間でもあった。

スタジオAを一年で辞めた理由は、給料が遅延し、一ヶ月後支払であったからだった。

最初の会社がそれだったので、給料の遅延、未払いに対して、私は敏感になったものだ。

それが、アニメ業界最後となるつもりだった作品やスタジオで起こるとは、さすがの私も思いもしなかった。

しかも一年を周期して、東京と沖縄、二つの故郷とも言える場所である。

これはもう笑うしかないのか。

私は嘆くばかりであったが、これよりこれまでの私の体験した事を、稚拙ではあるが文章にて認ためていこうと思う。

私の話を信じるか信じないかは、各々にお任せしようと思う。

だがこれは、私の身に実際に起こった事でもあり、私が体験した限りの中で、半分以上は真実であると私は連ねよう。

序章。